

人間環境学研究科 人間環境学専攻 博士前期課程

【教育研究上の目的】

人間環境学専攻では、人間活動と地球環境の持続的な関係を追求すべく、そのための有用な人材の育成と知的貢献に資する教育研究の実践を目的とする。

【教育目標】

人間環境学専攻は、持続可能な社会、循環型社会への転換をめざし、ひとりひとりの自発的・積極的な活動が求められる時代において、新しい社会の創出に向けて、具体的な課題を見出し、人間関係の構築、地球環境の保全のための計画づくりや実践力を有する人材を育成することを教育目標とする。

【ディプロマ・ポリシー】

人間環境学専攻では、人間活動と地球環境の持続的な関係に向けての実践力を有する人材の育成という教育目標に基づき、以下の知識・能力を身につけ、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格した学生に対し、課程の修了を認定し、修士（人間環境学）の学位を授与します。

1. 人間とそれをとりまく環境に関わる広範な知識を体系的に理解している。
2. 環境に関わる情報を論理的に分析する能力を情報リテラシー技能とともに身に付けている。
3. 環境課題を人間系との関わりをもとに発見し、高い倫理観のもとでその解決策を提案できる。
4. 自らを律して知識習得・研究活動を進めることができ、研究に関する議論が行えるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を備えている。
5. これまでに獲得した知識・技能に基づき、総合的に課題解決を図ることができる。

【カリキュラム・ポリシー】

人間環境学は、人間をとりまく科学技術、文化、経済などと環境の相互作用を扱う、従来分野の境界領域に位置する新しい学問分野であるため、都市・生態環境領域と文化・心身環境領域をバランスよく配置したコースワーク科目群を編成し、関連する領域の学問的成果を幅広く採り入れるとともに、能動的な学修が行えるようにします。一方、リサーチワーク科目はこうした知識をもとに学際的な研究活動を行い、修士論文として結実させようとするものですが、1年次においては、多様な分野からの入学者が適切な学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする初年次教育の性格を兼ね備え、2年次においてはさらにキャリア教育の性格を併せ持つようにします。

【アドミッション・ポリシー】

人間環境学専攻では、人間とその環境に深く関心を持ち、文理融合の知と専門的な技術、そしてそれらを発揮できる高度な実践力を身に付けようとする、創造力と意欲に富んだ学生に広く門戸を開いています。この点を踏まえ、以下のような学生の入学を希望します。

1. 環境に関連する1つ以上の分野における基礎的な知識と分析の技能を備えている。
2. 自ら課題を発見し解決するために必要な、思考力と判断力を有する。
3. 高度な専門分野の学修と研究活動を主体的かつ他者と協働して行うための積極的な意欲と表現力を兼ね備えている。
4. 深い探究心を持ち、高度な専門性を必要とする職務を担おうとの目標を持っている。

(選抜方法)

なお、入学者選抜は以下の通りであり、多角的な評価を行います。

【一般入試】 英語(33%)、専門科目(33%)、面接(33%)

【社会人入試】 小論文(50%)、面接(50%)

【留学生入試】 英語(33%)、専門科目(33%)、面接(33%)